

<<受難週のためのデボーションテキスト>>

イエス様が十字架にかかられた金曜日は「受難日」と呼ばれます。今年は4月2日にその日を迎えますが、その週は「受難週」として、すべてのキリスト教会が、イエス様が十字架の死を通して払われた犠牲の意味を深く考える時を持ちます。二千年も前に、エルサレムという世界の片隅で起きた出来事は、なぜ今を生きるわたしたちにとって、それほどの意味を持っているのでしょうか。

受難週に際して、1日ごとのデボーションテキストをお送りします。まず聖書箇所を読んでください。テキストを通して、聖霊が何を語ろうとしておられるかを黙想し、祈りを通して神様と語る時を持ってみてください。どうか聖霊様が、神様の愛と憐れみに満ちた深いご計画を悟らせてくださいますように。

❖ 3月28日（日）しゅろの日曜日 マルコ 11:1-10

今日のため本堂から配信された、士官学校長の動画メッセージをぜひご視聴ください。イエス様は平和の王として、子ろばに乗ってエルサレムに入城されました。自分を殺そうとする人々がいることを知りつつ、大勢の群衆の前に、救い主であるご自分の立場を堂々と現したのです。わたしは神の国のために、人々の救いのために遣わされたのだと。

わたしたちはどうでしょうか。毎日の生活の中で、神様の愛と真理にとどまり、言動において表明するには勇気と信仰が必要です。けれども、わたしたちは自分の力でそれをするではありません。イエス様は共にいてくださいます。

祈り：神様、今日、わたしが神様の愛と真理にしっかりと立つことができるように、勇気と信仰を与えてください。

賛美：『救世軍歌集』308 「わが身ののぞみは」

❖ 3月29日（月）マタイ 21:12-14

エルサレムに入城されたイエス様が次にされたことは「宮清め」でした。神を礼拝する祈りの家であるべき場所に、この世の俗や欲が入りこんでいたからです。いつも優しいイエス様が、怒って台や腰掛けをひっくり返す様子が想像できますか？ それほどに神様との関わりを持つ場所を大切にされていたからです。聖霊が降ってくださった今、わたしたちの体は「聖なる神の宮」です。どうでしょうか、イエス様が今のわたしをご覧になったら。わたしたちの体と心と霊が、神様の御心がなされる場であるように、イエス様は今も熱意をもって祈ってくださっています。

祈り：神様、あなたの麗しく、完全で、最善の御心が、わたしの人生になされるように、わたしの今日の1日を導いてください。

賛美：『救世軍歌集』244 「われは神の宮」

❖ 3月30日（火）マタイ 7:1-5

イエス様を十字架につけたのは、ねたみにかられた律法学者やファリサイ派の人々でした。宗教的権力者であった彼らは、神の掟を厳守している自分たちは絶対に正しい、という自負心のかたまりでした。その独善的な言動を聖書で読むと、なんておかしい…と思うのですが、ちょっと待ってください。わたしたちの内にも同じようなズレがないでしょうか。マタイ 7:1-5には、なぜあなたは自分のことを棚に上げて、人を批判するのか、とイエス様は言っています。わたしの中にも確か

にある、こういう醜さ、これがイエス様を十字架につけた罪深さなのかと気づかされます。自分の汚れや足りなさを率直に認めて、赦してください、と素直に祈りましょう。イエス様はわたしたちの罪深さを責めるためではなく、代わりに背負ってくださるために、十字架にかかってくださいました。

祈り：神様、わたしの目の中の丸太は何でしょうか。赦してください。あなたの忍耐と憐れみをありがとうございます。

賛美：『救世軍歌集』129 「主のたすけなくば」

❖ 3月31日（水）マタイ 22:34-40

今日の聖書箇所は非常に興味深いです。律法の専門家がイエス様を「試そう」として、律法の中で一番重要な掟は何なのかを尋ねました。イエス様がどう答えたとしても、その解釈に反対できる自信があったのでしょうか。けれどもイエス様が答えられたこと、「神と人を愛しなさい」という真理に、次の言葉が出なかったようです。

わたしたちもこの世から、多くの説明や根拠を求められることがあるかもしれません。信仰が試されることがあるかもしれません。けれども、イエス様が道、真理、命です。心と精神と思いを尽くして主なる神を愛し、お互いを愛し合うという真理に、よりどころを置いていきましょう。

祈り：神様、多くのことに思いわずらいそうになる時、一番重要なことは何であるかに立ち帰らせてください。

賛美：『救世軍歌集』276 「いかずちはためくとき」

❖ 4月1日（木）マルコ 14:32-36

神の子であるイエス様は、十字架の死も、復活の勝利も、すべてを前もって知っておられました。それでも現実として、死ぬばかりの悲しみ、もだえるほどのひどい恐れを覚え、そこを通りたくないという率直な苦しみを、父なる神様に叫んでおられる姿がここには描かれています。

わたしたちもどんなに神様を信じていても、悲しみや苦しみに圧倒されてしまう時があるのではないのでしょうか。でも、イエス様はわたしたちの葛藤を分かってくださいます。ご自分が経験されたからです。だからこそ、わたしたちの救い主となり得るのです。

祈り：神様、神の子であるイエス様が、人の子となってください、わたしたちの痛みを知り、寄り添ってくださることをありがとうございます。その深い愛をありがとうございます。

賛美：『救世軍歌集』278 「いかに悩み苦しみあれど」

❖ 4月2日（金）受難日 マルコ 15:25-32

十字架にはりつけになったイエス様に罵声が浴びせられます。そこから降りてみせろ、そうしたら神の子だと信じてやろう、と。イエス様は降りることができたのでしょうか？ もちろんです。けれども苦痛と恥辱に耐えて、十字架にとどまり続けたからこそ、救い主としての使命が全うされたのです。敗北と見える中に勝利が、束縛と見える中に解放がありました。神様の壮大なご計画の前では、わたしたちの期待や予想は裏切られることがあります。けれども、神様の視点で見させていただくならば、そこには必ず将来と希望を与える平和の計画が進行しています。

祈り：神様、あなたはわたしたちの思いや考えをはるかに超えたお方です。物事が閉ざされたと思う時、どうか神様のご計画に信頼することができるよう助けてください。聖霊が、心の目を開いてくださいますように。イエス様、十字架にとどまってください、ありがとうございます。

賛美：『救世軍歌集』131 「つみのけがれをいかにしてあらい」

❖ 4月3日（土）マルコ 15:33-41

受難日が終わりました。イエス様の遺体は墓に葬られ、弟子たちは権威者を恐れて散り散りになり、イエス様に従ってきた女性たちは涙に暮れています。そんな人々の思いに対しても、そして「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」というイエス様の叫びに対しても、父なる神様はただただ沈黙を通しておられるようです。受難日の苦しみと復活のイースターの喜びの合間には、いつもこの沈黙の時があります。みなさんの置かれている状況に対しても、神様は沈黙されていますか？ 「静まって、わたしこそ神であることを知れ」（詩篇 46：11 口語訳）。沈黙の時は、わたしたちが神様をどういうお方として信じているのかを見つめ直す時なのかもしれません。

祈り：神様、あなたの沈黙は無視ではないということを教えてください。静けさの中で、どうかわたしの心を探ってください。イエス様の十字架の意味を悟らせてください。

賛美：『救世軍歌集』55 「十字架にかかりしイエスキミを見よや」

❖ 4月4日（日）ルカ 24:1-9

イースターおめでとうございます！ そうです、イエス様はよみがえられました！ すべてのことに終止符を打ってしまう死さえも、滅ぼしてくださったのです。天使は言いました。「あの方はここにはおられない。」「ここ」とは、遺体が安置されていた墓のことです。みなさんも経験があるのでしょうか。今まで、どれほどの希望や夢が砕かれ、愛や喜びが裏切られ、墓に埋葬されてきたことか。しかしイエス様は、その墓の扉を打ち破ってくださったのです。不完全なわたしたちは、いやでも失敗や誤ちを繰り返してしまうでしょう。けれども十字架のあがないを信じる信仰を通して、わたしたちは新しく洗われることができますのです。赦しの恵み、新たにされる祝福、なんといいをいただいていることでしょうか。救い主イエス様に感謝いたします。父なる神様、聖霊なる神様に感謝いたします。

祈り：神様、イースターの恵みを感謝します。イエス様を死からよみがえらせた復活の力が、今日、わたしの上にも注がれていることを感謝します。復活の主であるイエス様の御名をほめたたえます。どうか日々、あなたの力と愛でわたしを満たし、神様と人を愛し、仕えていくことができるよう助けてください。

賛美：『救世軍歌集』コーラス 104 「生きているのはもう」